

ブームアップ 経済統計

今なお資源輸出に依存する
ロシア経済

(ロシア連邦税関「交易条件」)

大和総研 経済調査部
主席研究員

山崎 加津子



ロシアの経済成長率は、2014年0・7%、15年マイナス2・5%、16年マイナス0・2%と停滞した。ようやく17年は1・5%に加速したが、00年から12年の成長率の平均が5・2%だったことを思い起こすと大きく見劣りする。

ロシアの成長率と連動性が高いのが交易条件である(図表)。交易条件とは、輸物価指数を輸入物価指数で除した指数のこと。例えば、交易条件が改善した場合、より高い価格で輸出できているか、より安い価格で輸入できているか、あるいはその両方となる。ゆえに、交易条件の改善は、その国の購買力の向上を示す。

14年から16年にかけてロシアの

交易条件は大幅に悪化した。資源輸出国であるロシアの輸物価指数は、原油を筆頭とする資源価格との連動性が非常に高く、原油価格が14年半ばの高値から16年1月の安値まで70%超下落した影響が如実に表われたのである。また、資源輸出への依存度の高さを反映して、ロシアの通貨ルーブルも資源価格に連動しやすい。原油価格が急落すればルーブル安が進行しやすく、購買力という点ではダブルパンチとなる。

原油価格下落を阻止すべく、ロシアは16年11月にOPEC(石油輸出国機構)と原油の協調減産で合意した。それにより原油価格は上昇し、ロシアの交易条件も改善

して、成長率はプラスに転じた。ただし、米国のシェールオイル増産など需給緩和見通しもあって原油価格の上昇が17年前半に一服すると、交易条件はふたたび悪化した。原油価格は17年後半に上昇に転じたが、輸入物価も上昇したため交易条件は改善せず、ロシアの成長率も年末に伸びが鈍化した。

資源輸出に対する依存度が高く、資源価格の変動に左右されやすい経済構造は、非常に不安定である。ロシア政府は10年以上前から資源依存脱却を重要課題に掲げ、外資誘致や起業支援、イノベーションの奨励等を通じて新たな産業の柱の育成に取り組んできた。とはいえ、これは容易な課題ではない。石油や天然ガスなどの資源が輸出に占める割合は、08年の85%から16年は72%まで低下したものの、依然として高水準を保っている。

原因の一つとして、14年のロシアによるクリミア併合を契機に、欧米が対ロシアの経済制裁を実施し、それが現在まで継続していることが指摘される。当初の制裁内

容は政府高官の渡航禁止や資産凍結だったが、その後、ロシア国有銀行に対する資金提供の禁止や、ロシア企業への技術供与の制限などに強化されている。

ロシアが安定成長を実現するには、新産業の育成と資源輸出への依存度の抑制が欠かせないが、ロシアと米欧との関係が最近一段と悪化している。そのため、資金面でも技術面でも、この課題の達成がより困難になることが懸念される。

ロシアの交易条件とGDP成長率

